

## 【大会報告】

# 第46回日本基礎老化学会大会を終えて

石神 昭人

東京都健康長寿医療センター研究所 副所長

2023年6月16日から18日までの3日間にわたり、横浜のパシフィコ横浜ノースにて第46回日本基礎老化学会大会を開催しました。今大会は、老年学に関係する7つの学会（日本老年医学会、日本老年社会科学会、日本基礎老化学会、日本老年精神医学会、日本老年歯科医学会、日本老年看護学会、日本ケアマネジメント学会）が共催する第33回日本老年学会総会の一環として日本基礎老化学会大会を開催しました。日本老年学会総会の準備期間には、2021年1月のキックオフ会議より2年半の月日を要し、その間に計16回のZoomによる合同会議を開きました。今大会の準備では、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による感染者数の増減を繰り返し、会場での対面開催が可能かどうか、直前まで判断に苦慮しました。最終的には、日本老年学会総会では、7学会合同シンポジウムを会場、オンライン配信、そして大会終了後にオンデマンド配信を行いました。一方、日本基礎老化学会大会では、会場のみで開催しました。幸いにも、2023年5月に新型コロナウイルス感染症が第5類に移行したことから、感染防止のため会場ではマスク着用をお願いしましたが、無事に大会を対面で開催できました。

日本老年学会総会では、16の合同シンポジウムを企画しました。その中でも日本基礎老化学会からは、合同シンポジウム「モデル生物を用いた老化のメカニズム解明への新展開」として芝浦工業大学の福井浩二先生に企画と座長をお願いしました。また、このシンポジウムの演者として小野悠介先生（熊本大学）、清水逸平先生（国立循環器病センター）、杉本昌隆先生（東京都健康長寿

医療センター研究所）にご発表頂きました。他にも、合同シンポジウム「高齢者の定義—その後の展開と展望」に国際医療福祉大学の下澤達雄先生に日本基礎老化学会の代表としてご発表頂きました。さらに、日本老年学会総会7学会合同ポスターでは、日本基礎老化学会を代表して滋賀医科大学の金田勇人先生、東京都健康長寿医療センター研究所の津島博道先生、東京都健康長寿医療センター研究所の佐藤綾美先生、神戸大学の姜函林先生、東京都健康長寿医療センター研究所の竹岩俊彦先生にポスター発表をして頂きました。これら5つの演題は、日本基礎老化学会の一般演題から第46回日本基礎老化学会プログラム委員と運営組織委員による投票により選出された優れた研究発表です。そして、金田勇人先生の発表演題に対して日本老年学会最優秀演題賞を受賞しました。また、他4つの発表演題に対して日本老年学会優秀演題賞を受賞しました。3日間にわたる第33回日本老年学会総会には、7学会で計8,239名の皆様にご参加頂きました。

今回の第46回日本基礎老化学会大会のメインテーマは、「老化制御への挑戦」とさせて頂きました。老化は、生物にとって避けがたい現象ですが、その速度を遅くすることは可能です。そして、老化制御の達成は、健康寿命の延伸に繋がります。

第46回日本基礎老化学会大会では、組織運営委員長の大藤昌吾先生をはじめ7名の大会組織委員と福井浩二先生をはじめ18名のプログラム委員の先生方にご協力頂き、シンポジウムの企画や大会全体のプログラムを作成しました。このように多くの先生方に委員をお願いし





た理由は、2021年の第42回日本基礎老化学会大会の時と同様に多くの会員の先生方に大会やその運営に参加して頂き、大会での議論を活発にしたかったからです。その甲斐もあり、企画された6つのシンポジウム「老化と中枢神経」、「バイオインフォマティクス・生体変容」、「食事・栄養と健康長寿」、「腸内細菌と健康寿命」、企業シンポジウム「企業が目指す老化制御の挑戦」、日本基礎老化学会-日本組織培養学会 ジョイントシンポジウム「老化と疾患研究」は、どれも今までにはない基礎老化学会独自のシンポジウムとなりました。特に、学会や大会を支えて頂いている企業の方に発表して頂いた企業シンポジウムや日本組織培養学会との合同シンポジウムは、新しい試みであり、多くの方々に興味を持って頂きました。このようなシンポジウムを企画して頂き、また自らも座長や演者を務めて頂いたプログラム委員の先生方には感謝しきれません。この場を持って改めて御礼申し上げます。

今大会では、前述の6つのシンポジウム以外にも会員から53演題という多くのポスター発表がありました。会員の皆様はご存じのように基礎老化学会大会では優秀な研究発表に対して、日本基礎老化学会奨励賞を授与し

ています。今大会では、学生会員の発表演題に対しては、学生優秀発表賞として別に設けさせて頂きました。これは、1人でも多くの研究者や学生会員に受賞の機会を増やし、この受賞をステップにして老化研究を更に発展させて欲しいという私の思いからです。厳選の結果、佐藤綾美（東京都健康長寿医療センター研究所）、竹岩俊彦（東京都健康長寿医療センター研究所）、津島博道（東京都健康長寿医療センター研究所）の3名の先生方が日本基礎老化学会奨励賞を受賞されました。また、小笠原長耀（熊本大学）、塩田達也（大阪大学）、八谷一貴（東京理科大学）の3名の大学院生の方が学生優秀発表賞を受賞されました。

2023年4月より、京都光華女子大学の細川昌則先生、長崎大学の下川功先生、韓国ハリムン大学のYong-Sun Kim先生、韓国釜山大学のHae Young Chung先生の4名の先生方が新しく名誉会員になりました。長年に渡り基礎老化学会を牽引し、学会の発展に大きく貢献して頂いたことは、皆感謝しきれません。心よりお祝い申し上げます。本来、名誉会員の推戴式は総会で行うのが通例ですが、今大会プログラムに時間的余裕がないため、懇親会で推戴式を執り行わせて頂きました。そして、新



名誉会員の先生方には、基礎老化学会での思い出話や現会員への熱いメッセージを頂きました。今回、残念ながら Yong-Sun Kim 先生、Hae Young Chung 先生には御出席頂けませんでした。予めビデオメッセージをお送り頂きました。また、Yong-Sun Kim 先生の代理としてハリムン大学の Eun-Kyoung Choi 先生にご出席頂き、ご挨拶を賜りました。さらに、石井直明名誉会員より、新名誉会員へのお祝いのお言葉を賜りました。新名誉会員の先生方のお話を伺っていると昔の基礎老化学会での出来事が懐かしく思い出されました。これからも日本基礎老化学会がさらに発展するよう、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

懇親会には、97 名という多くの方々に参加して頂きました。時間の制約により会場ではできなかった研究の議論ができたこと、普段はあまり会えない研究者同士の懇親を深めることができたこと、そして何よりも皆様の

お陰で楽しい会にできたこと、大会長として感謝申し上げます。

第 46 回日本基礎老化学会大会には、217 名の方々にご参加頂きました。多くの方々にご参加頂けたこと本当に感謝しております。昨今、大会の運営は大会参加費のみで賄うことは到底できず、多くの協賛企業によるご支援がない限りできないのが実情です。ご支援頂きました多くの協賛企業の皆様にこの場を持って深く感謝申し上げます。また、とても魅力的なランチョンセミナーを共催して頂きましたキシダ化学株式会社、及びロート製薬株式会社に深く感謝申し上げます。最後になりますが、大会運営や私を影ながら支えてくれた研究室のスタッフ、およびお手伝い頂いた学生の皆さんに深く感謝申し上げます。会員皆様の今後の研究の発展と日本基礎老化学会の益々の繁栄を祈ります。